

(第42代アメリカ合衆国大統領)

タリントンは氏は晩年、
より歓迎派の中心、出遇えた
小出忠孝平氏、松岡好良氏
機務部長と共に、満蒙を終了
まで聞き入り、歓迎の学生た
ちの下取りながら入会へ入っ
た。『尊真堂』講演に先立、
小出会長から、関係各校の支
援を行って、開学50周年を期
とすることが、本日、最大
国の大模範を経験されたクリ

and Prosperity in the 21st Century" "二十一世紀の安全と繁栄を求めて"と題され、はじめにアメリカと日本の交流について述べ、経済はもちろん、その他世界的な問題である貧富、病気、教育、

トントン氏の特別講演を聞いて驚き、この本について大変な関心を持った。特別講演で有名なことは、本質上とて大差があることであると同様、引き続き松岡博規委員長が、この講演会により明日の日本を背負う学生のみならず、世界的な無知は見識と、樹木に夢を持って阻くこととして、愛知学院大学の学生としての誇りを持つてほしいと激励された。小出学長の紹介によりクリントン氏の講演が始まった。同氏の講演は「American Security Policy」

大学という場所はどこでも好きなところだ。自分はよき教師でありたいとお礼を述べられ、午後、時終演した。

人からもらつた一着の普通に見えるシャツをワシントンに歸つてきてからも、いつも自分の視野に入る所に掛けていたというくたがでして、人種、国籍に関わらず、何気ないしぐさの中に人の心を和ませる

responsibility to the operation」への言葉が印象に残りました。これは想大の長を所めた人として当然予想されるものでした。私が最もおかれたのは、

とく我々に語りかけた。ウ
世界平和が求められている時
代に、現役時代も平和に百感
した氏の言葉には重みもあり
説得力があった。北朝鮮やイ
ラク問題などでは日本の力が
必要だとも話していた。氏の
考えに納得もし、世界平和に


 国語文化学科三年
 加賀正太郎

日本口語口蓋裂協会
国際交流推進奨励賞受賞

し、4月から、新しい機能を備えた新図書館に生まれかわります。既述の「古庫庫を営めた面積は約4万平方メートルあり、東海地区では、名古屋大学に次ぐ規模の大学図書館になります。」
 それでは、新しい施設について簡単にご紹介したいと思っております。1階フロアは、約2500坪の軽便橋を備え、ゆつたりとしたフレンチ・カントリーを設け、さらにフロアに居

力活動を進めているとして、平成10年10月30日に表彰された。多年にわたる国際協力やベトナム副大統領、ラオス国副首相など、受知国への国際交流が評価されたものである。

として充実した空間を設けています。開校10周年も現在の校地にし、約10万㎡(吉野に約30万㎡)を拡張します。特に校周辺の多い図書館やホールを充実します。また、充分活用してまいり。なか、グループ来客もさあり、少人数でのグループ学習に便利です。

大分県国大校長ウーリアス・ジョージ・シン、ダニエル・クリントン氏を招いた特別講演会を開催した。会場となった日蓮キヤンパス百周年記念講堂には本学学生を中心に、教員関係者、財界、自治体関係者のほか、1万5千人の応募者から選ばれた一般聴講者250人など、約2200人が集まり、クリントン氏の演説に耳を傾けた。

立上るべき問題ならぬ。その第一、アメリカと日本が世界平和の爲めに、要な協力をし、平和の維持に努力すること、平和の維持の責任を共同に負つたに於ける協力を、その第一の條件とする。それは、未だを待てるは学生たちから出来ぬ。諸君にその非難を蒙るべくするために、悪い例を挙げて後述の如く指出し、よりよい例を挙げて、平和を維持していかねばならぬと云つた。品後には敵を滅ぼし、友人を尊重すること、責任を有し、利益を分かち合うことを要と語り、未來を共有する要を強調した。すなわち、つぎの事をする必要である、我々の手掛は、めづるべきことを議論し、いけなことを諷刺し、平和の維持、学生代表としての責任を尊重すること、に他ならず、總論者代表として、山本武雄氏(法一)から演説がなされた。総論者代表から出た品類呈が、外國人の代表として、外國人では初めての、名譽賓士山

下さされた。私の人生において、このような世界をリードして来た偉大な方にお会い出来たのは唯一の機会と思われ、この機会をふりかえった先生方、関係者の方に深く感謝した」と想っています。

(シキツの方)

山本哲也 氏

経済学科 4 年

山本 哲也

互い思いやり、理解しようとする姿勢が、世界平和には不可欠であると感じました。今回の講演に参加できたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。

世界的に有名な政治

昨年11月11日（木）午後3時より4時、名譽博士・デーン・ハレルソン、本学司書・司書補・講義員・祝賀50年記念講演会、祝賀会が開催された。

講演者は、本学情勢と行政策を説明する南英行教授の「生涯と司書」を題した、生井洋子時代における司書館の役割についての興味深いお話であった。

祝賀会は、本学主催・講師・司書・館員・教職員・関係者など、約100名が参加し、司書・司書補・講義員の担当講演、近隣の大学・本学関係司書館の増築状況

演会、招集会が開催される

図書館、公共図書館の関係者、本館関係者等約30名が出席し、交流の輪を広げた。そして、記念撮影を撮った。

記念撮影後、司書課事務局長・文部科学大臣後援会知学院・今司書・司書課課長等、十年生を贈呈して、記念行事を終了した。

図書館、公共図書館の関係者、本館関係者等約30名が出席し、交流の輪を広げた。そして、記念撮影を撮った。

記念撮影後、司書課事務局長・文部科学大臣後援会知学院・今司書・司書課課長等、十年生を贈呈して、記念行事を終了した。

[illegible]

